

Nāgabodhi の *Samājasādhanavyavasthāna* について

—— Vajrācāryanayottama から回収された Skt. 原文を中心に ——

田 中 公 明

(1)はじめに

筆者は、いままで『秘密集会タントラ』の解釈学派「聖者流」の Nāgabodhi/Nāgabuddhi に帰せられる *Śrī-guhyasamājamaṇḍalopāyikā-viṃśati-vidhi* (以下 *Viṃśatīvidhi* と略) について、ネパールで発見されたサンスクリット (以下 Skt. と略) 写本 *Vajrācāryanayottama*⁽¹⁾ から回収された原文を中心に研究を進めてきたが、これら一連の論文は、『東洋文化研究所紀要』第146号に寄稿した「Nāgabodhi の *Śrī-guhyasamājamaṇḍalopāyikā-viṃśati-vidhi* における 5 種の sthānaka と 53 種の ākṣepa について」をもって一応の完結を見た。

しかし Nāgabodhi には *Viṃśatīvidhi* の他に、『秘密集会』『聖者流』に関する、もう一篇の重要な著作が知られている。それが今回紹介する『秘密集会安立次第論』である。なお本文献の Skt. 写本は、最近まで発見されていなかった。またチベット訳が指摘する梵題は *Samājasādhanavyavasthole*⁽²⁾ となっているが、これは Skt. として不自然なので、原題は **Samājasādhanavyavasthāna* と復元されている。(以下 *Vyavasthāna* と略)

Vyavasthāna は、*Viṃśatīvidhi* が曼荼羅儀礼の実践的なマニュアルであるのに対し、曼荼羅やそれを用いたヨーガの思想的意義を説くところに特徴がある。そのため『秘密集会』『聖者流』に基づいてチベット密教を体系化したツォンカバは本書を重視し、『安立次第論註釈』rNam gźag rim pa'i rnam bśad⁽³⁾

を著して、その内容に詳細な解説を加えている。

ところが *Vyavasthāna* は、「聖者流」の他の重要典籍と異なり、最近まで Skt. 写本が発見されず、Skt. 原文が伝存する他のテキストにも、ほとんど引用されていない。そのため、その重要性は、ややもすれば看過される傾向にあった。

筆者は、前述の *Vajrācāryanayottama* に *Vyavasthāna* とパラレルな一節があることを発見したが、不幸にして *Vajrācāryanayottama* のカトマンドゥ写本は、この部分が破損しており、さらに研究を進めることはできなかった。ところがその後、ゲッチングゲン大学図書館⁽⁴⁾が入手した Rāhula Sāṅkrtyāyana 撮影の Skt. 写本の写真の中に *Vajrācāryanayottama* の別写本があることがわかり、調査したところ、全体のほぼ6分の1に当たる Skt. 原文が回収できることがわかった⁽⁵⁾。

さらに Rāhula Sāṅkrtyāyana が同時に撮影した写真のセクター A にも、*Vyavasthāna* の完本が撮影されていることがわかった。そこで今回は、*Vajrācāryanayottama* が引用した部分を中心に、*Vyavasthāna* の内容を紹介してみたい。

(2) 写本の状況

それでは、今回取り上げる三つの Skt. 写本を概観してみよう。

まずカトマンドゥ写本（以下 Ms.K と略）は、筆者が *Vimśatividhi* のローマ字化テキスト整定に用いたカトマンドゥの Ginni Sharma 氏提供本で、Nepal German Manuscript Preservation Project (NGMPP) 撮影のマイクロフィルムのリール No.E920/12に相当する。

全体は、筆跡から A（4葉）B（22葉）C（20葉）の3グループに分けられるが、*Vyavasthāna* に相当する 34a, 46a, 45b は、*Vimśatividhi* と同じ B 群に

属している。このうち34aの保存状態は良好だが、46aと45bは写本の左端と右半分を欠いており、全葉の半分程度しか読むことができない。

いっぽうゲッチンゲン写本は、Rāhula Sāṅkrtyāyana がチベットで発見し、写真撮影したもので、そのガラス乾板は、長らくパトナの Jayaswal Institute に保管されていた。ゲッチンゲン大学は、Jayaswal Institute から写真の複製を入手したが、写本を所蔵しているわけではない。その後ゲッチンゲンからは写真の目録⁽⁶⁾が刊行されたが、編者が密教の専門家ではなかったこともあり、多くのテキストが同定されないままになっていた。

目録の Sanskrit Manuscript Xc14/30のセクター B が、*Vajrācāryanayottama* に相当することが明らかにしたのは、Harunaga Isaacson, 苦米地等流両氏である。このうち *Vyavasthāna* に対応するのは、B の26b3から30a2⁽⁷⁾までである。(以下 Ms.Gb と略)

いっぽうセクター A は、『秘密集会』『聖者流』の複数の文献を連写した写本である。このうち *Vyavasthāna* に対応する部分は、セクター A の25a2から26a6までである。(以下 Ms.Ga と略) Sāṅkrtyāyana が撮影した写真には不鮮明なカットが少なくないが、この部分でも、25b を撮影した第6の乾板は比較的鮮明であるが、25a と26a が写っている第5の乾板はハレーションを起こしており、非常に不鮮明である。しかしこの部分は、*Vajrācāryanayottama* や他文献を援用することができるので、なんとか文字を判読することができた。

いっぽうチベット訳では、この部分は影印北京版『西藏大藏経』(北京 No. 2674) Vol.62の10-2-1から11-1-2まで、中国蔵学中心編『丹珠爾』(対勘本)⁽⁸⁾第18巻の p.351, 1.13から p.355, 1.21までに相当する。

本稿では、*Vyavasthāna* のうち *Vajrācāryanayottama* に引用された部分のみのローマ字化テキストを提出するが、これでも全体のほぼ6分の1弱がローマ字化されたことになる。

(3)Skt.原文が回収された部分の内容

つぎに、今回とりあげる部分の内容を概観してみよう。なお Skt. 3 写本とチベット訳、引用文献との対照表を作成したので、あわせて参照されたい。

原文が回収されたのは、四章からなる *Vyavasthāna* の第三章「出生曼荼羅の安立次第」*phyuñ ba'i dkyil 'khor gyi rnam gźag rim pa* の一部である。

前述のツォンカパの『安立次第論註釈』によると、第三章は、3-1.「出生曼荼羅自体」*phyuñ ba'i dkyil 'khor dños*, 3-2.「出生の所依の曼荼羅を教証によって説明する」*phyuñ ba'i rten gyi dkyil 'khor luñ gis bsgrub pa*, 3-3.「質疑」*dris lan gyis dogs pa bcad pa* の三節に分けられる。

原文が回収されたのは、3-1.の後半部分3-1-3.「出生した本尊が事業をなした後、自らの座位に就く」*phyuñ ba'i lhas phrin las mdzad nas rañ gnas su 'khod pa* と3-1-4.「それらの標幟と身色等の説示」*de dag phyag mtshan dañ sku mdog la sogs pa bstan pa*, 3-2.の全文と、3-3.に4つのトピックがあるうちの3-3-1.「四印によって本尊の身を捺印することに関する質疑」*phyag rgya bźis lha'i sku rgyas gdab pa la dris lan gyis dogs pa bcad pa* と、3-3-2.『秘密集会』の諸尊は三面であると説かれることに関する質疑」*'dus pa'i lha rnams źal gsum par bśad pa la dris lan gyis dogs pa bcad pa*, 3-3-3.「曼荼羅の尊数が一致しないことに関する質疑」*dkyil 'khor gyi lha grañs mi mthun pa la dris lan gyis dogs pa bcad pa* に相当する。そこで以下ではツォンカパの分科により、これらのトピックの内容を簡単に見ることにしよう。

3-1-3. 出生した本尊が事業をなした後、自らの座位に就く

『秘密集会』曼荼羅の諸尊は、すべて三面六臂で、衆生の煩惱を浄めた後、

曼荼羅の所定の座位に就く。

3-1-4. それらの標幟と身色等の説示

諸尊は六本の手に金剛・輪・宝珠・蓮華・剣・鈴を持つが、これらは六如来、すなわち『秘密集会』の五仏に金剛薩埵を加えた六尊の三昧耶形である。これは Nāgabodhi の時代に、後期密教の六仏説が、すでに成立していたことを示している。また息災・増益等の区別によって、五仏は五種の身色をもつとされている。

3-2. 出生の所依の曼荼羅を教証によって説明する

この一節は、『秘密集会タントラ』第一分を引用して出生の曼荼羅 *utsarga-maṇḍala* の教証とするものである。なお出生の所依の曼荼羅とは、妃の女性器に放出された菩提心、つまり精液が曼荼羅の諸尊＝能依となるのに対し、女性器 *bhaga* が所依、すなわち曼荼羅の楼閣に転変すると観想するものである。なおこの一節は、*Vajrācāryanayottama* では省略されているが、Ms.Ga と『秘密集会タントラ』（表では GS と表記）の Skt. 校訂テキスト⁽⁹⁾から復元することができる。

3-3-1. 四印によって本尊の身を捺印することに関する質疑

後期密教に先行する『金剛頂経』系の瑜伽タントラでは、尊格を成就する行者は、大・三・法・羯の四印を結んで、尊格との一体化を実現しなければならなかった。これに対して『秘密集会タントラ』には四印の説示がなく、どのようにして本尊と一体化するのかという問いが提示される。

これに対して『秘密集会』では、(三十二相八十種好を備えた)本尊の身が大印であり、妃(=四仏母)が三昧耶印、真言の文字が法印、種々の姿によって衆生の利益をはかることが羯磨印であると説かれている。

3-3-2. 『秘密集会』の諸尊は三面として説いたことに関する質疑

『秘密集会』曼荼羅の諸尊は、「聖者流」「ジュニャーナパーダ流」ともに、すべて三面六臂となるが、ここではその理由が問われる。インド後期密教では、曼荼羅の主尊は多面広臂の密教仏となることが多い。『秘密集会』曼荼羅の主尊、阿閼金剛や文殊金剛はともに三面六臂であるが、ヘーヴァージュラは八面一六臂、チャクラサンヴァラは三面六臂あるいは四面一二臂、カーラチャクラは四面二四臂となる。

しかし後期密教に先行する初中期密教では、多面広臂像はヒンドゥー教から取り入れられた護法尊や変化観音、忿怒尊に限られ、如来が多面広臂となることはなかった。そこで『撰真実』等の両タントラでは、一面と決定している」といわれる。ところが『秘密集会』曼荼羅では、曼荼羅の諸尊は、すべて三面六臂となる。そこで、その理由が問われたのである。

なおここで注目されるのは、チベット訳で『撰真実』等と両タントラでは「de kho na ñid bsdus pa la sogs pa dañ/ gñi ga'i rgyud las ni」となっている箇所が、Skt.では『撰真実』等の両タントラ」となっていることである。『安立次第論註釈』でも明らかなように、チベットでは従来、『撰真実』等とは『金剛頂経』系の瑜伽タントラ、両タントラとは所作と瑜伽の特徴を合わせもつ『大日経』系の行タントラを指すと解釈されてきた⁽¹⁰⁾。ところがSkt.では、3写本とも *tattvasaṃgrahādy ubhayatantra* とあり、『撰真実』等と両タントラを並列複合語と解するのには無理がある。いっぽう *Vimśatīvidhi* では、Skt. 写本が欠けている第一儀軌の第二偈に、所作・行と二種の瑜伽 *gñi ga'i*

rnal 'byor タントラへの言及がある⁽¹¹⁾。したがって Nāgabodhi のいう両タントラとは『大日経』系の行タントラではなく、『金剛頂経』系の瑜伽と後期密教系の大瑜伽の両者であると推定される。したがって本文献が成立したのは、後期密教系でも多面広臂像が一般的ではなかった、きわめて初期の段階と考えられる。

さらにその後、三面の教証として『秘密集会』の釈タントラ『密意解釈タントラ』*Samdhyāvvyākaraṇa-vyākhyātantra* (表では SV と表記) を10偈にわたって引用するが、すでにツォンカパが『安立次第論註釈』で指摘した⁽¹²⁾ように、現行のチベット訳とは、一部しか一致しない。『密意解釈タントラ』は『秘密集会』根本タントラの第十二分までしか解説していないため、釈タントラの中では最も成立が古いと考えられていた⁽¹³⁾。しかし Nāgabodhi の引用と、現行のチベット訳が一致しないという事実は、その成立問題に一石を投じるものといえよう。

3-3-3. 曼荼羅の尊数が一致しないことに関する質疑

『秘密集会』曼荼羅の尊数は、根本タントラ第一分には一三尊しか説かれな
いが、「聖者流」では阿閼金剛を主尊とする三二尊、「ジュニャーナパーダ流」
では文殊金剛を主尊とする一九尊となり、流派によって一致しない。

これに対して Nāgabodhi は、根本タントラで曼荼羅の諸尊を完全に説かなか
ったのは、阿闍梨(の口伝)なくして(勝手に曼荼羅の)儀礼を行ってはな
らないからであるという。日本密教でも、『大日経』の本文には乱脱があり、
阿闍梨の口伝によって正して読まなければならないとされるが、それに類する
ものといえよう。

さらに Nāgabodhi は、釈タントラの『金剛鬘』*Vajramālā* (表では VM と
表記) には、曼荼羅の諸尊が完全な形で説かれるといい、これを引用している。

なお『金剛鬘タントラ』の Skt. 写本は、いまだ発見されていないが、同じ「聖者流」に属する Candrakīrti の *Pradīpoddyotana* が同一箇所を引用している⁽¹⁴⁾。しかし両者の引用を比較すると、かなりの語句が相違している。

なお松長有慶博士によって、『金剛鬘』は、「聖者流」の論書と相互に影響を及ぼしながら成立したことが指摘されている⁽¹⁵⁾。三十二尊曼荼羅の典拠に関する Nāgabodhi の弁明は、『金剛鬘』の宗派的帰属を暗示するものといえよう。

(4) 回収されたサンスクリット原文

それでは以下に、*Vajrācāryānaṣṭottama* から回収された *Vyavasthāna* の原文を、中国蔵学研究中心編『丹珠爾』所収のチベット訳（頁の左側）と対照させつつ、掲載することにする。

Ms.K のみを用いた *Viṃśatīvidhī* とは異なり、今回は Ms.Ga と Gb も参照することができた。そこで三者が異なる場合は、文法的・韻律的に正しい語形、あるいはチベット訳に一致する読みを採用し、異読は註に示した。

これらの写本は、東インド系写本の常として *ba* と *va* の区別が無い。*virāma* も欠落⁽¹⁶⁾することが多いが、注記することなく適宜訂正した。また写本では、*sattva*, *tattva* が常套的に *satva*, *tatva* となり、*repha* の直後の子音が重複するなど、現在とは異なった正書法が見られる。本稿では、3 写本の何れかに現在の正書法と一致する綴字がある場合はこれを採用したが、すべての写本が現在とは異なる綴字を示す場合は、そのまま転写した。

また *s+s*, *s+ś* の連声は、Ms.K と Ms.Gb では *ḥ+s*, *ḥ+ś*, Ms.Ga では *s+s*, *ś+ś* と記されるが、本稿では前者を採用した。いっぽう代用 *anusvāra* に関しては、正規の綴字を優先した。またこれらの異読に関しては、あまり煩雑になるので、一々注記していない。

なおテキスト中途の [] でくくった箇所 (3-3-2に相当する) は、*Vajrācā-*

Nāgabodhi の *Samājasādhanavyavasthāna* について
ryanayottama の二写本はなく、Ms.Ga と『秘密集会タントラ』のみに基づい
てローマ字化した部分である。また後半において [] でくくった部分は、
Ms.K の欠失箇所、Ms.Ga, Gb のみを参照した。さらに後半の *Vajramālā-*
tantra からの引用は、同一箇所を引用する *Pradīpoddyotana* の校訂テキスト
も参照した。

いっぽう註で用いた{ }は、写本に存在する文字や記号が不要であることを
示し、不要な文字が校正段階で筆誅されている場合は{__}とした。

Nāgabodhi's *Samājasādhanavyavasthāna*

lha sum cu rtsa gñis po 'di dag gi	(34a7) ime devā ⁽¹⁷⁾ dvātriṃśan
sprul pa'i sku	nirmmāṇakāyās
žal gsum phyag drug pa	trimukhaṣaḍbhujākārā ⁽¹⁸⁾
mtshan ma'i phyag mtshan sna tshogs	nānācihnamudrā-
phyag na bsnam pa rnam	gṛhitahastāḥ/ ⁽¹⁹⁾
byañ chub kyi sems las	bodhicittān
sñags kyi gzugs kyis sprul pa yañ	mantraika ⁽²⁰⁾ nirmmāṇād vā
'bad pa med pa ñid kyis	anābhogenaiva
sgrub pa po'i lus kyi dkyil 'khor las	sādhakasya ⁽²¹⁾ kāyamaṇḍalād
phyuñ ste/	vinirgatya
bsod nams kyi tshogs	puṇyasambhāra-
'phel bar bya ba'i don du	vṛddhyartham ⁽²²⁾
'dod chags dañ že sdañ dañ gti mug la	rāgadveṣamohādi-
spyod pa'i sems can rnam kyi	caritasatvā(34a8)nām
ñon moñs pa'i sgrub pa rnam	tattatsamādhinā ⁽²³⁾
tiñ ñe 'dzin de dañ des	kleśādyāvarenaṇi ⁽²⁴⁾

sbyaṅs nas slar byon te	viśodhya punar āgatya
rañ rañ gi stan la bźugs par gyur to/	svakasvakeṣv ⁽²⁵⁾ āsaneṣu
	niṣaṅṅā abhūvann iti//
rdo rje dañ/ 'khor lo dañ/	vajracakra-
rin po che dañ/ padma dañ/ ral gri dañ/	ratnapadmakhadga-
dril bu rnams graṅs bźin du	ghaṅṅā yathāsaṃkhyam
de bźin gśegs pa drug gi	ṣaṭ tathāgatānām
mtshan mar gsuṅs te/	uktāni cihnāni/
de ñid ni mtshon cha lta bur bsname so/	ta eva praharaṅākāreṇa dhāritāḥ/
ži dañ rgyas pa la sogs pa'i	śāntipuṣṭyādikarmabhedād ⁽²⁶⁾
las kyi dbye bas	varṅṅabhe(34a9)dena
kha dog so sor bya'o/	bhinnāḥ/
rin po che thams cad dañ ldan pa'i phyir	sarvaratnair yuktatvād
mdog indra nī la lta bu'o//	indranīlavarṅṅaḥ/ ⁽²⁷⁾
phyuṅ ba'i dkyil 'khor 'di ñid	[iman evotsargamaṅḍalam]
bśad pa'i phyir rtsa ba'i rgyud las/	[udbhāvayann āha/ mūlasūtre/]
de nas de bźin gśegs pa mi bskyod pa	[atha khalv akṣobhyas tathāgataḥ]
de bźin gśegs pa thams cad	[sarvatathāgata-]
btsun mo'i bha ga la	[yoṣidbhageṣu]
rdul dañ bral ba'i dam tshig chen po'i	[virajaskaṃ mahāsamaya-]
dkyil 'khor byin gyis brlabs pa ni/	[maṅḍalam adhiṣṭhāpayāmāsa/]
gsal ba de yi ño bo ñid/	[svacchaṃ ca tatsvabhāvam ⁽²⁸⁾]
sna tshogs gźugs kyis kun du mtshan/	[nānārūpaṃ samantataḥ/]

sañs rgyas sprin gyis kun du khyab/	[buddhameghasamākīrṇaṃ]
'od zer 'phro ba mañ po 'khrug//	[sphuliṅgagahanākulaṃ//]
gsal ba la sogś dkyil 'khor ldan/	[svacchādimaṅḍalair yuktaṃ]
de bzin gśegs pa kun gyi gzi/	[sarvatāthāgataṃ puram]
žes gsuñs so//	[iti/]
gsol pa/	āha/
gal te rgyud 'di la	yady asmin tantre ⁽²⁹⁾
lag pa'i phyag rgya med na	hastamudrā nāsti
'di ltar phyag rgya bžis rgyas btab pa'i	kathaṃ caturmudrāmudrita ⁽³⁰⁾
lha'i sku bskyed par 'gyur/	devatārūpaṃ niṣpadyate// ⁽³¹⁾
bka' stsal pa/	āha//
sañs rgyas kyi yon tan ma lus pas	niravaśeṣabuddhaguṇā-
brgyan pa'i	laṃkṛtā-
gžis gyur pa'i lha'i sku ni	dhārabhūtā ⁽³²⁾ devatākārā
phyag rgya chen po'o/	mahāmudrā//
btsun mo ni dam tshig gi phyag rgya'o/yoṣit samayamudrā/	
sñags kyi yi ge ni	mantrākṣara(46a1)[m eva]
chos kyi phyag rgya'o/	dharmamudrā/
gzugs sna tshogs kyis	viśvarūpeṇa
sems can thams cad kyi don byed ciñ	sakalajagadarthakriyā-
sgrub pa ni las kyi phyag rgya'o/	niṣpādanaṃ karmamudrā//
gsol pa/	āha

de kho na ñid bsdus pa la sogs pa dañ/	tatvasaṃgrahādy ⁽³³⁾
gñi ga'i rgyud las ni	ubhayatantra-
žal gcig par rab tu grags na/	prasiddha ekamukhaṃ ⁽³⁴⁾
ci'i phyir 'dir	ki[m artham atra]
žal gsum pa lta bur snañ bar 'gyur/	[trimukhākāra ⁽³⁵⁾ saṃdrśyata iti]
bka' stsal pa/	[āha]
bcom ldan 'das ñid kyis 'di'i don	[bhagavān eva kāraṇam āha]
bśad pa'i rgyud	[sandhyāvvyākaraṇa-]
dgoñs pa luñ ston pa'i rgyud las/	[vyākhyātantre/]
gañ žig phyi nañ bdag gyur dañ/	[mahāta](46a2)tvam idaṃ tat tu ⁽³⁶⁾
de ñid gñis ka'i rtog pa rnams/	sa bāhyādhyātmikaṃ bhavet/
gñis su med par bśad pa ste/	tatvobhayasaṃkalpam
'di yi de ñid chen po yin//1//	advayaṃ samudāhṛtaṃ//
lag pa g-yon par rab tu grags pa'i/	kaniṣṭhānāmikāmadhya ⁽³⁷⁾
mthe'u chuñ tha ltag guñ mo dañ/	tarjjanyaṅguṣṭhakas tathā/
de bžin mdzub mo mthe boñ ni/	[rūpādisamasamkhyena]
rim bžin gzugs la sogs par gzuñ//2//	[vāme hastena ⁽³⁸⁾ kīrttitāḥ/]
de rnams dños po med pa yi/	[ete niḥsvabhāvayogāt ⁽³⁹⁾
šes rab rnam par 'byed mtshan ñid/	[praññāpravīcayalakṣaṇā/]
chos kyi sku ru rnam par bśad/	[dharmakāyaḥ sam](46a3)ākhyātas
de bžin ñid dañ gñis med miñ//3//	tathatādvayaṣaṃjñakāḥ/ ⁽⁴⁰⁾

mi bskyod rin chen dpag med dañ/ akṣobhyaratnāmitābhā-
 don yod rnam snañ de bžin gśegs/ moghavairocanās tathāgatāḥ⁽⁴¹⁾/
 'di dag lag pa g-yas pa yi/ ete dakṣiṇahaste[na]
 mthe'u chuñ la sogs rim bžin gnas//4// [kaniṣṭhādi⁽⁴²⁾vyavasthitāḥ/]

gñis ka gcig tu sbyar ba yi/ [ubhayor ekakam saṃghas]⁽⁴³⁾
 'di yi de ñid skyabs gsum pa/ [tad idaṃ śaraṇatrikaṃ/]
 sañs rgyas chos dañ dge 'dun te/ [buddho dharmmas tathā saṃgha]⁽⁴⁴⁾
 gcig kyañ gsum du brtags pa yin//5// [eko 'pi⁽⁴⁵⁾ kalpanātrayaṃ/]

phan tshun sbyor bas rdo rje sems/[niba](46a4)ddhānyonya vajrasatvaṃ
 śes rab thabs kyi go 'phañ mchog/ prajñopāyapadottamaṃ⁽⁴⁶⁾/
 thal mo sbyor ba tsam gyis ni/ añjalir baddhamā[tre tu]
 sañs rgyas thams cad yañ dag 'gugs//6// [sarvabuddhā]n samāvahet//

skyabs gsum de ñid gsum yin te/ triśaraṇaṃ⁽⁴⁷⁾ [tritavan tu]
 sku gsum rnam par thar gsum gyi/ [trikāyas⁽⁴⁸⁾ trivimokṣakaḥ/]
 žal gsum yin te mdog gsum yañ/ [trimukhas tryakṣaraś caivam]
 sbyor gsum dam tshig gsum sbyor bas//7// [tridevaḥ⁽⁴⁹⁾ syāt tridhātukaḥ/]

khams gsum du ni lha gsum gyi/ [tryadhvan trisamayaḥ śreṣṭhas]
 dkyil 'khor gsum gyis dus gsum du/ [tritayaḥ syāt](46a5)trimaṇḍalah/⁽⁵⁰⁾
 lam gsum gyis ni mchog gsum gyi/ triyogas⁽⁵¹⁾ trimārggaś ca
 ji sñed du ni rtogs pas bskul//8// yāvantaḥ kalpacoditāḥ/

gsol ba 'debs pa yid la byed/ adhyeṣananamaskāra-

'jig rten rnam kyī don rnam byed/ yañ dag sañs rgyas de mñes 'gyur/ de ñid 'dir ni thal mor gnas//9//	lokeṣu prārthana[kriyā] [sambuddhatoṣaṇa ⁽⁵²⁾ tat syāt] [tvadiyāñjalitaḥ sthitaḥ/]
sems can gañ de sañs rgyas yin/ de bñin ñid dañ gñis med chos/ gnas med gnas pa'i sbyor ba yis/ sañs rgyas thams cad rnam par bñugs//10// žes gsuñs so/	[ye satvās te ca buddhāḥ syus] [tathatādvayadharmataḥ/] [asthānasthitiyo](46a6)gena buddhāḥ sarve ⁽⁵³⁾ vyavasthitā iti/
gsol pa/ 'dir gsañ ba 'dus pa'i dkyil 'khor la lha rnam dgod pa slob dpon sna tshogs pa'i gžūñ 'jig rten du rab tu 'jug par 'gyur te/ de ji ltar sgrub pa po rnam som ñi ma mchis par 'gyur/	āha/ asmin guhyasamāje ⁽⁵⁴⁾ / māṇḍaleya ⁽⁵⁵⁾ devatāvinyāso nānācāryābhīmato ⁽⁵⁶⁾ lo[ke pravarttate/] [tat kathaṃ sādhakānām] [niḥsandeham ⁽⁵⁷⁾ bhavati/]
sems dpa' chen po legs so legs so/ luñ dañ rigs pas so sor bśad par bya'o/ ji ltar sku'i dkyil 'khor la phuñ po la sogs pa'i rañ bñin gyi lha rnam miñ gis dgod pa de bñin du	[āha] ⁽⁵⁸⁾ [sādhu sādhu mahāsatva] [yuktyāgamābhyāṃ te] [pratipādayāmi/] [yathā kāyamaṇḍale] (46a7)skandhādisvabhāvena devatāvinyāso ⁽⁵⁹⁾ nāma ca/ tadvad

phyuñ ba'i dkyil 'khor la yañ	utsarggamaṇḍale cāpi
lha rnam s dgod par 'gyur ro/	devatāvinyāsenā ⁽⁶⁰⁾ bhavitavyaṃ/
de lta mod kyi rtsa ba'i rgyud las	[tathāpi mūlasūtre]
lha dgod pa rdzogs par ma bstan pa ni	[paripūrṇṇadevatāvinyāso nāsti/ ⁽⁶¹⁾]
'di ltar slob dpon med par	[kin tu nācāryakaṃ]
'jug par ma gyur cig sñam du dgoñs so/	[pravarttanaṃ mā bhūd iti/]
dkyil 'khor dgod pa yañ gcig tu	[maṇḍalavinyāsaś caikatra]
yoñs su rdzogs par bcom ldan 'das kyis	[paripūrṇṇo na bhagavatā]
dpal rdo rje phreñ ba źes bya ba'i	[pra](45b1)darśitaḥ/ ⁽⁶²⁾
bśad pa'i rgyud las	vyākhyātantre/ ⁽⁶³⁾
	śrīvajramālāyāṃ
yañ dag par gsuñs te	caikatra pradarśitaḥ/ ⁽⁶⁴⁾
de la 'jug par bya'o/	tad avatāryate/
sems kyis gźan ni mi bsam par/	śrṇu tvaṃ [vai] mahāsattva
sems dpa' chen po mñan par gyis/	nānyacittena saṃ[smara/]
rdo rje slob dpon lus 'di la/	[vajrācāryasya kāye 'smin ⁽⁶⁵⁾]
rgyal ba'i sku ni rim bźin gnas//1//	[kramaṃ kāyajinasthitaḥ ⁽⁶⁶⁾ /]
dañ po sku yi rdo rje ni/	[prathamam kāyavajreṇa]
gzugs phuñ la ni rab tu bźugs/	[rūpaskandhena saṃsthitah/]
rjes su chags pa'i rdo rje ni/	[anurāgaṇavajreṇa]
tshor ba'i phuñ por rab tu bźugs//2//	[vedanāskandhena saṃsthitah/]
bcom ldan gsuñ gi rdo rje ni/	(45b2)[vā]gvajreṇa bhagavān

'du śes kyi ni phuñ por bžugs/ mchod pa kun gyi rdo rje ni/ 'du byed kyi ni phuñ por bžugs//3//	saṃjñāskandhena saṃsthitāḥ/ sarvapūjana ⁽⁶⁷⁾ vajreṇa saṃskāraskandhena saṃsthitāḥ/
bcom ldan thugs kyi rdo rje ni/ rnam śes phuñ por yañ dag bžugs/ 'di yi śa sogs sa khams la/ bcom ldan 'das yum spyen ma bžugs//4//	cittavajreṇa bha[gavān] [vijñānaskandha ⁽⁶⁸⁾ sthitō[']py asau/ [māṃsādi ⁽⁶⁹⁾ pṛthivīdhātur] [bhagavatī locanā sthitā/ ⁽⁷⁰⁾
khrag sogs chu yi khams la ni/ bcom ldan 'das yum mā ma bžugs/ dro ba la sogs me khams la/ bcom ldan 'das yum gos dkar bžugs//5//	[śoṇitādijaladhātu] [bhagavatī māmakī sthitā/ ⁽⁷¹⁾ (45b3)[u]ṣṇāditejodhātur bhagavatī pāṇḍaravāsini sthitā/
bskyod pa la sogs rluñ khams la/ bcom ldan 'das yum sgröl ma bžugs/ de yi mig gi dbaṅ gñis la/ de bžin gšegs pa sa sñiñ po//6//	preraṇādi maruddhātus tārā bhagavatī sthitā/ netradvayendriyan [tasya] [kṣitigarbhas ⁽⁷²⁾ tathāgataḥ/]
de yi rna ba'i dbaṅ gñis la/ bde gšegs phyag na rdo rje'o/ de yi sna yi dbaṅ gñis la/ de bžin gšegs pa mkha' sñiñ bžugs//7//	[śrotradvayendriyaṃ tasya] [vajrapāṇis tathāgataḥ/] [ghraṇasthitam indriyan tasya] [gaganagañjas tathāgataḥ/]
de lce dbaṅ la bžugs pa ni/ de bžin gšegs pa 'jiḡ rten dbaṅ/	[jihvāsthitam i](45b4)ndriyan tasya lokeśvaras tathāgataḥ/

de yi yid kyi dbaṅ po la/ manasi sthitam indriyan tasya
de bžin gšegs pa 'jam dbyaṅs bžugs//8//⁽⁷³⁾ mañjughoṣas tathāgataḥ/

khams bži'i raṅ bžin goṅ bu ni/ caturddhātumayaṃ piṇḍaṃ
raṅ gi lus žes bya miṅ la/ śarīran tu saṃ[jñītaṃ/⁽⁷⁴⁾]
sgrib pa themś cad rnaṃs sel ba/ [sarvanivaraṇaviṣkambhī⁽⁷⁵⁾]
de bžin gšegs pa 'dir bžugs so//9// [tathāgatas tatra tiṣṭhati/⁽⁷⁶⁾]

lus kyi tshigs ni thams cad la/ [sarvasandhi[ḥ] śarīrasya]
de bžin gšegs pa kun tu bzaṅ/ [samantabhadras tathāgataḥ//]
lus kyi rtsa rgyus thams cad la/⁽⁷⁷⁾ [sarvasnāyuh⁽⁷⁸⁾ śarīrasya]
de bžin gšegs pa byams pa'o//10// [maitreyas tathāgataḥ//]

lag pa g-yas pa'i rtsa bar ni/ (45b5)dakṣiṇe bhujamūle tu⁽⁷⁹⁾
de bžin gšegs pa gšin rje gšed/ yamāntakas tathāgataḥ
lag pa g-yon pa'i rtsa bar ni/ vāmabhujamūle tu
bder gšegs gžan gyis mi thub pa//11// aparājitās tathāgataḥ//

kha yi pa dmar bžugs pa ni/ [mukhapa]dme saṃtiṣṭhet tu⁽⁸⁰⁾
de bžin gšegs pa rta mgrin no/ hayagrīvas tathāga[taḥ/]
gsaṅ ba'i gnaś su bžugs pa ni/ [guhyapradeśena tiṣṭhed⁽⁸¹⁾]
de bžin gšegs pa bdud rtsi 'kyil//12// [amṛtakuṇḍalis tathāgataḥ/]

dpuṅ pa g-yas par bžugs pa ni/ [dakṣiṇe bāhau tiṣṭhet tv]
de bžin gšegs pa mi g-yo ba/ [acalo 'sau tathāgataḥ/]
dpuṅ pa g-yon par bžugs pa ni/ [vāmabāhau tiṣṭhet tu]

de bžin gšegs pa 'dod pa'i rgyal//13//	[ṭakki](45b6)rājas tathāgataḥ/
pus mo g-yas na bžugs pa ni/	dakṣiṇajānau ca tiṣṭhen ⁽⁸²⁾
de bžin gšegs pa dbyugs pa sñon/	nīladaṇḍas tathāgataḥ/
pus mo g-yon la bžugs pa ni/	vāmajānau tiṣṭhet tu
de bžin gšegs pa stobs po che//14//	mahābalas tathāgataḥ/
rañ gi spyi bor bžugs pa ni/	svaśīrṣamūrdhni [tiṣṭhec]
de bžin gšegs pa 'khor lo sgyur/	[cakravartī tathāgataḥ/]
rkañ pa'i mthil du bžugs pa ni/	[adhaḥ pāde tu ⁽⁸³⁾ tiṣṭhet]
de bžin gšegs pa gnod mdzes te//15//	[sumbharājas tathāgataḥ/]
lus ni 'di ñid kun la 'dir/	[samaste caiva kāye 'smin]
sku yi dkyil 'khor žes brjod pa/	[sarvvatathāgataḥ sthitāḥ/]
rdo rje slob dpon ñid kyi lus/	[kāyamaṇḍalam i](45b7)ty uktaṃ
sañs rgyas rnams kyi sku rdzogs pa//16//	vajrācāryasya kāyikaṃ/
'di dag ma lus rdzogs sañs rgyas/	ete sakalasambuddhāḥ
rdo rje legs byas bstan pa ni/	samāstā buddhakāyikāḥ/
mya ñan 'das la 'jug par 'gyur/	praveśayanti nirvvāṇaṃ
bcom ldan mya ñan 'das 'gyur thob//17//	vajrī saṃskṛtadeśinah/
khyod kyī dge ba yoñs su smin/	śīghraṃ nirvvā[si bhagavan]
de ni rdo rje slob dpon gyi/	[paripaktakuśalaṃ bhava ⁽⁸⁴⁾ /]
lus la rgyal ba thams cad bžugs/	[tasmād vajraguroḥ kāye]
//18//	[jināḥ sarve adhiṣṭhitāḥ/]

ñon cig mthoñ ba don yod kye/	[paścātkāle mahāsatva ⁽⁸⁵⁾]
phyi ma'i dus na sems dpa' che/	[śṛṇu he '](45b8)moghadarśaka/ ⁽⁸⁶⁾
dañ po'i las kyi sems can gyi/	ādikarmikasatvaiś ca
rab tu 'bad de bla ma bsten//19//	guruḥ sevyaḥ ⁽⁸⁷⁾ prayatnataḥ/
de tshe mthoñ ba don yod bcas/	tathāmoghadarśinā ⁽⁸⁸⁾ saha
byañ chub sems dpa' grags pa che/	bo[dhisatvā mahāyaśās]
dga' žiñ mgu la rab dañ ldan/	[tuṣṭāḥ pramuditā ⁽⁸⁹⁾ hrṣṭāḥ]
phyag 'tshal nas ni mchi ma blags//20//	[praṇamyāśrunipātītā]
žes gsuñs so/	[iti//]

- 1 *Vajrācāryanayottama* の写本については、拙稿「ネパールのサンスクリット語仏教文献研究－第41回学術大会における発表以後同定された断片について－」『印度学仏教学研究』46-2（1998[平成10]年）を参照。なおゲッチンゲン写本（後述）のCD-ROMは、2002年のヨーロッパ調査で購入したが、*Vimśatvidhi* に対応する部分は存在しなかった。
- 2 ナルタン版は°*vyavasthola* とする。また Ga. 写本にも°*vyavastholi* の題名が現れ、本文の Skt. 原題についても、さらなる検討が必要である。
- 3 同書に関しては最近、北村太道、ツルティム・ケサン両氏による『秘密集会安立次第論註釈－チベット密教の真髄－』（永田文昌堂、二〇〇〇年）が刊行された。同書の末尾には原著のオフセット復刻も添付されており、有益である。
- 4 同図書館は、Niedersächsische Staats- und Universitätsbibliothek, Göttingen といい、ニーダーザクセン州立図書館と大学図書館を兼ねている。
- 5 ゲッチンゲン写本の存在については、苦米地等流, Harunaga Isaacson 両氏から教示を受けた。
- 6 Bandurski, “Übersicht über die Göttinger Sammlungen der von Rāhula Sāṅkrtyāyana in Tibet aufgefundenen buddhistischen Sanskrit-Texte (Funde buddhistischer Sanskrit-Handschriften, III)”, in Bechert Heinz (ed.), Sanskrit-

- Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, Beiheft 5, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1994, pp.9-126.
- 7 写本のセクター分割と fol. 番号は、苦米地等流「いわゆる Vajrācāryanayottama について－新出関連写本の紹介－」（『密教図像』第23号）によったが、r=recto, v=verso は a,b と表記した。
- 8 中国蔵学中心編『丹珠爾』（対勘本）第18巻, 中国蔵学出版社 1997。同書はデルゲ, 北京, ナルタン, チョーネの四版を対校し, 現段階では最も信頼できる刊本といえる。(表では「丹珠爾」と表記)
- 9 松長有慶『秘密集会タントラ校訂梵本』（東方出版, 1978), p.5, 11.8-12.
- 10 北村・ツルティム上掲3書, p.115.
- 11 拙稿「Nāgabodhi の *Śrī-guhyasamājamaṇḍalopāyikā-vimśati-vidhi*－全体の構成と 1.bhūmiśodhanavidhi の概要－」（科学研究費成果報告書『中世インドの学際的研究』, 2005）所収（pp.185-199）参照。
- 12 北村・ツルティム上掲3書, p.116.
- 13 松長有慶『密教経典成立史論』（法蔵館, 1980）, p.236.
- 14 C.Chakravarti: *Guhyasamājatantrapradīpodyo (sic) tanaṭikā*, Ṣaṭkoṭivākyā, Patna, 1984, pp.27-28.
- 15 松長上掲13書, pp.288-302.
- 16 ネパールの古文字学の権威 Hemaraj Shakyā 氏によれば, 本文献のような Maithilī の写本では, virāma はしばしば欠落するという。
- 17 Ms.K: ddevā
- 18 Ms.K: trimukhaḥ bhujākārā; Ms.Ga: trimukhaṣaḍbhujā
- 19 Ms.K: gr̥hitahastā; Ms.Gb: gr̥hitahastā
- 20 Ms.K: mantraiḥka
- 21 Ms.Gb: sādhasya
- 22 Ms.K: vṛddhyarthe
- 23 Ms.K: ta{tsa}ttatsamādhinā; Ms.Ga: tatsamādhinā
- 24 Ms.Ga: kleśāvaraṇaṃ
- 25 Ms.Ga: svakasvakīyeṣv
- 26 Ms.K: śāntyādikabhedād; Ms.Gb: śāntyādikarmabhedād
- 27 Ms.K: indranīla(?)varṇṇaḥ/
- 28 Ms.Ga: svacchaṃ tatsvabhāvaṃ ??
- 29 Ms.K: taṃtraī

- 30 Ms.Ga: caturmudrāmudritam
 31 Ms.K: devatārūpaṃ niṣpādyate/; Ms.Ga: devatārūpa niṣpadyate/
 32 Ms.Gb: buddhaguṇālaṅkāradhārabhūtā
 33 Ms.K: tatvasaṃ{he}gra{ve}hādy
 34 Ms.Ga: prasiddhaikamukhaṃ; Ms.Gb.: prasiddhaikamu{ka}kha
 35 Ms.Gb: trimukhākāṇa
 36 Ms.K,Gb: idaṃ tat
 37 Ms.K,Ga: kaniṣṭhānāmikāmadyā
 38 Ms.Ga: vāmahastena
 39 Ms.Ga: eteṣaṃ niḥsvabhāvayogāt; Ms.Gb: eteṣān nisvabhāvayogāt
 40 Ms.Ga: tathatādvyasaṅketāḥ/; Ms.Gb: tathatā 'dvayasaṃjñakāḥ/
 41 Ms.K: tathā
 42 Ms.Ga: kaniṣṭhādiṣu
 43 Ms.Gb: ekaḥ saṃghas
 44 Ms.Gb: saṃghaḥ
 45 Ms.Ga: ekopi
 46 Ms.K: prajñopāyapadottamaḥ/
 47 Ms.Ga: triśaraṇas; Ms.Gb: triśaraṇaṃs
 48 Ms.Ga: trikāya
 49 Ms.Gb: trivedaḥ
 50 Ms.K: trimaṇḍalaḥ; Ms.Gb.: trimaṇḍalas
 51 Ms.K: triyogaḥ; Ms.Ga: triyogāt
 52 Ms.Ga: sambuddhatoṣaṇa
 53 Ms.Ga: buddhās sarve; Gb: buddhāḥ sarvve{ḥ}
 54 Ms.Ga: śrīguhyasamāje
 55 Ms.K: māṇḍaya
 56 Ms.K: nānācāryādīmato
 57 Ms.Ga: niḥsandeścaṃ; Gb: saṃdiśyam
 58 Ms.Ga only
 59 Ms.Ga: devatāvinyāsaṃ
 60 Ms.Gb: tatvad utsarggamaṇḍale pi devatāvinyāse{pi}na
 61 Ms.Gb: na paripūrṇadevatāvinyāso 'sti
 62 Ms.Ga: maṇḍalavinyāsaṃ caikatra paripūrṇaṃ bhagavatā na pradarśitam/

- 63 Ms.Ga: vyākhyātantre tu
64 Ms.Ga: caikatra na pradarsītaṃ
65 Ms.Gb: asmin
66 Ms.Ga: kāyajinasthiteḥ//
67 Ms.K,Gb: sarvapūjyena
68 Ms.Gb: vijñānasandhena
69 Ms.Ga: mānsādi
70 Ms.Gb: sthitāḥ/
71 Ms.Gb: sthitāḥ
72 Ms.Ga: kṣitigarbbhas
73 第 8 偈後半の半偈は、Tib. 訳では第 9 偈の後に挿入されている。
74 Ms.Ga: tathāgatāḥ/ tatra; Gb: saṃjñi(kā)taṃ
75 Ms.Ga: sarvanivaraṇavimbhī{??}
76 Ms.Ga: tathāgatas tiṣṭhati
77 Peking/Narthang に従って半偈を挿入。
78 Ms.Ga: snāyuś; Ms.Gb: snāyu
79 Ms.K: []kṣiṇabhujē tu; Ga: dakṣiṇe mūlabhujē tu
80 Ms.K: []dme tu saṃtiṣṭhet tu
81 Ms.Gb: guhyapradeśe tiṣṭhet tv
82 Ms.K: dakṣiṇajāṇau tiṣṭhe; Ms.Ga: dakṣiṇajāṇau tiṣṭhet tu
83 Ms.Ga: ca
84 Ms.Gb: pariṣaktakuśalabhavaḥ/
85 Ms.Gb: mahāsatvaḥ
86 Ms.Gb: amoghadarśakaḥ/
87 Ms.K,Ga: sevya
88 Ms.Gb: tathā amoghadarśinā
89 Ms.Gb: pramuditāḥ

Nāgabodhi の Samājasāghanavyavasthāna について

Nāgabodhi: Samājasāghanavyavasthāna, 3-1-3~3-3-3.

内 容		Ms.K.	Ms.Ga.	Ms.Gb.	北京版	丹珠爾	GS	SV	VM	
3-1-3.出生した本尊が事業を なした後、自らの座位に就く		34a7	25a3	26b3	10-2-1	351-13				
3-1-4.それらの標幟と身色等		34a8	25a4	26b5	10-2-3	351-20				
3-2.出生の所依の曼荼羅を教 証によって説明する		欠	25a5	欠	10-2-5	352-4	◎			
3-3-1.四印によって本 尊の身を捺印するこ とに関する質疑	質問	34a9	25a6	27a2	10-2-7	352-10				
	答え	34a9	25a6	27a3	10-2-8	352-11				
3-3-2.『秘密集 会』の諸尊は三 面であると説か れることに関す る質疑	質問	46a1	25a7	27a4	10-3-1	352-15				
	答え	46a1	25a8	27a5	10-3-2	352-17				
	教証 第1偈	46a2	25a8	27a5	10-3-3	352-19		○		
	第2偈	46a2	25a8	27b1	10-3-3	352-20		○		
	第3偈	46a2	25a9	27b2	10-3-4	353-1		○		
	第4偈	46a3	25a9	27b2	10-3-5	353-3		○		
	第5偈	46a3	25b1	27b3	10-3-5	353-5		○		
	第6偈	46a4	25b1	27b4	10-3-6	353-7		○		
	第7偈	46a4	25b2	27b5	10-3-7	353-9		○		
	第8偈	46a4	25b2	27b5	10-3-8	353-11		○		
3-3-3.曼荼羅の 尊数が一致しな いことに関する 質疑	第9偈	46a5	25b2	28a1	10-3-8	353-13		○		
	第10偈	46a5	25b3	28a2	10-4-1	353-15		○		
	質問	46a6	25b3	28a3	10-4-2	353-18				
	理証 答え	46a6	25b4	28a4	10-4-2	353-21				
	教証	第1偈	45b1	25b6	28b2	10-4-6	354-7			◎
		第2偈	45b1	25b7	28b3	10-4-6	354-9			◎
		第3偈	45b2	25b7	28b4	10-4-7	354-11			◎
		第4偈	45b2	25b8	28b5	10-4-7	354-13			◎
		第5偈	45b2	25b8	28b5	10-4-8	354-14			◎
		第6偈	45b3	25b8	29a1	10-5-1	354-16			◎
		第7偈	45b3	25b9	29a2	10-5-2	354-18			◎
		第8偈	45b4	25b9	29a2	10-5-2	354-20			◎
		第9偈	45b4	26a1	29a3	10-5-3	354-21			◎
		第10偈	45b4	26a1	29a4	10-5-4	355-3			◎
		第11偈	45b5	26a2	29a5	10-5-5	355-4			◎
		第12偈	45b5	26a2	29a5	10-5-5	355-6			◎
		第13偈	45b5	26a2	29b1	10-5-6	355-8			◎
		第14偈	45b6	26b3	29b2	10-5-7	355-10			◎
		第15偈	45b6	26b3	29b3	10-5-8	355-12			◎
		第16偈	45b6	26b4	29b3	10-5-8	355-14			◎
第17偈		45b7	26b4	29b4	11-1-1	355-16			◎	
第18偈		45b7	26b5	29b5	11-1-2	355-18			◎	
第19偈	45b7	26b5	30a1	11-1-2	355-19			◎		
第20偈	45b8	26b6	30a1	11-1-3	355-21			◎		